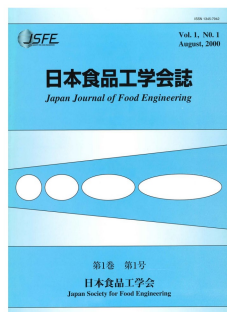


# 20周年記念特集 その1

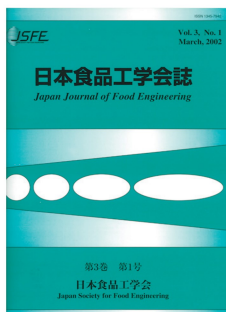
20周年特集



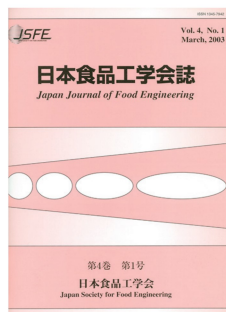
第1巻



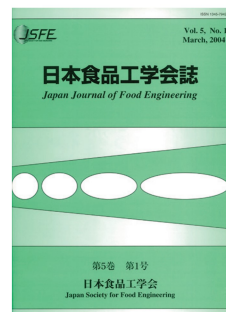
第2巻



第3巻



第4巻



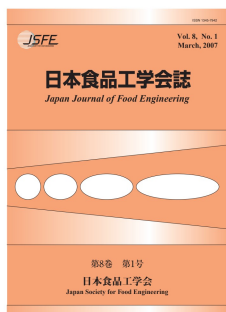
第5巻



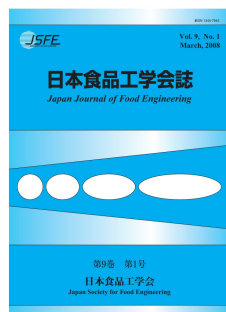
第6巻



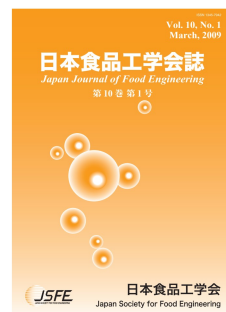
第7巻



第8巻



第9巻



第10巻



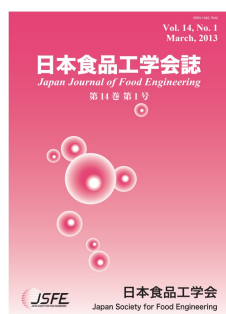
第11巻



第12巻



第13巻



第14巻



第15巻



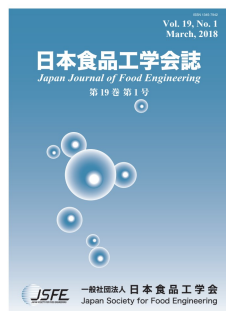
第16巻



第17巻



第18巻



第19巻



第20巻

# 日本食品工学会 20周年特集 その1

山本 修一



日本食品工学会は2000年8月に設立され、本年で20年となります。

記念すべき日本食品工学会誌の第1巻第1号の最初の記事は初代会長松野隆一先生が、「日本食品工学会の強い意志をもった門出とその地道な発展に向けて」という題目で執筆されています。この記事では、学会設立の経緯と、学会が向かうべき方向や将来像について述べられています。その後、日本食品工学会誌は第2巻から年4号の出版を継続し、本号が21巻2号となります。当初は紙媒体のみの出版でしたが、現在はデジタル版もオープンアクセスとしてWEB上で公開しています。

日本食品工学会は20周年を記念していくつかの事業を計画しています。10周年では記念誌を作成し設立からの10年間の活動をふりかえり次の10年を展望してもらいました。今回は、20周年記念特集記事を本号から4号まで順次、掲載していきます。

本号における20周年記念の特集記事は、最初に20周年事業全体の紹介と、その中で特にインダストリー委員会が刊行した「続・使ってみよう！この技術」について担当責任者である本会稲熊会長が経緯について述べています。

引き続き4編の特別寄稿記事が掲載されています。

矢野卓雄元会長の記事「どうする食糧自給率0%」では、食品原料そのものを作り出す、日本における農業の現状について日本各地の限界集落を訪問してわかったことを私たちに伝えてくれています。現在の不安定な世界状況で食料資源確保の重要性を再認識している人も多いと思いますが、この記事でススメているライフスタイルへの変換は起きるでしょうか。

井村直人副会長は、「食品工学の産業界への貢献と未来への期待」という題目の記事で本学会が産業界へさらに貢献するために必要なことを紹介しています。最先端の学問とともに、製造のための工学基礎の重要さは不変です。

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標SDGs (sustainable development goals) は、政府・自治体、さらに企業においても実施されていますが、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）に長年奉職された鍋谷氏が、食品工学がどのようにSDGsに貢献できるかについて、提言しています(SDGsの達成に向けての食品工学研究)。奇しくも矢野元会長と同様に食料自給率についての観点も述べています。

最後に、農研機構の小林 功氏に「食品工学のさらなる発展への期待」という題目で、今後の食品工学について展望していただきました。

編集委員会の20周年記念事業としては、学会の各種出版物のデジタルアーカイブ化（オンライン図書館）をすすめています。年次大会や講演会の要旨も会員がいつでもアクセスできるようにする予定です。ワークスタイルの転換が必要とされている現状では、デジタルアーカイブは、役にたつと思います。

(編集委員長 山本修一)

